

ホラズミヒラタゴミムシ *Jujiroa troglodytes* S.Uéno

【選定理由】

豊橋市の蛇穴を基準産地として記載された種で、東海地方の固有種であるが、近年生息の確認例が減少している。

【形態】

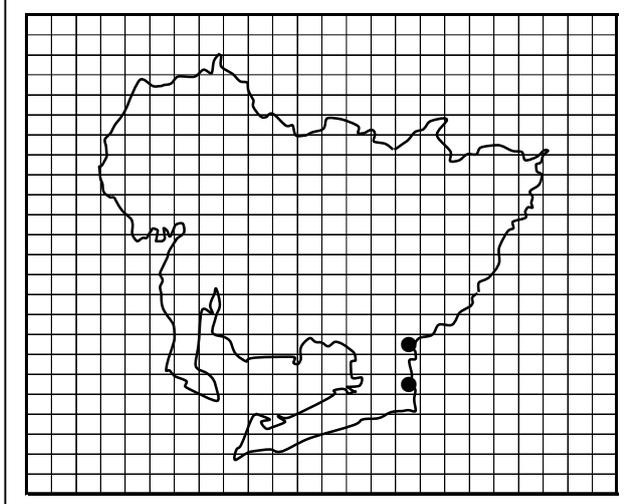
体長 11.5～12.5mm。体色はアメ色で、複眼は退化傾向にあり、小さい。頭部は複眼の位置で最も幅広。前胸背側縁は弓状に湾曲し、基部でよく収縮する。上翅は基部孔点を欠き、第3間室の孔点は2～3。各脚は長く細い。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋市の蛇穴および新穴周辺の特産種。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

洞窟あるいは、地中性。洞窟内部の石下などから発見される他、洞窟周辺の林床、地下浅層からも発見される。主要な生息地は地下浅層であると推定される。

【現在の生息状況／減少の要因】

基準産地の蛇穴では発見が困難になっている。新穴では現在、入り口が閉鎖されており、また調査には高度なケービング技術を要するため、最近の生息状況は未調査である。洞窟以外にも、晩秋に近くのため池畔の地下浅層が表出した場所で少くない個体が採集されたこともある。減少の原因、あるいは採集が困難になった原因には、洞窟を含む森林の乾燥化が考えられる外、マニアによる過剰採集やトラップの放置なども脅威となっている。

【保全上の留意点】

蛇穴の環境をこれ以上悪化させないこと、周辺の森林の乾燥化を防ぐことが必要である。蛇穴は縄文前期の遺跡があることから国指定の天然記念物に指定されているが、入洞に規制はない。今後各方面の関係者、専門家を交えて、洞窟動物の保全対策について検討する必要がある。

【保全上の留意点】

豊橋市の蛇穴および新穴周辺の特産種であり、県内の絶滅は種の絶滅に直結する。

【関連文献】

S. Uéno, 1955. New cave-dwelling Anchomenids of Japan. Opusc. Ent., 20: 56-64., pl.1.  
岩崎 博・蟹江 昇, 1990. 愛知県のオサムシ類. 愛知県の昆虫, (上): 309-338. 愛知県.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)